



須磨寺 本堂内陣

青葉の笛だより

第 16 号

平成 28 年 正月号

発行所：大本山 須磨寺

〒654-0071

神戸市須磨区須磨寺町4-6-8

TEL 078-731-0416(代)

<http://www.sumadera.or.jp/>

秘仏本尊御開帳

須磨を語るにおいて、自然と歴史から離れることはできません。古来より海と山に囲まれた風光明媚な景勝の地であり、山陽道と瀬戸内航路の要衝の地として知られ、「須磨の関」や「源平合戦」などの歴史、「源氏物語」「平家物語」「松風村雨」の舞台となった、成熟した文化的空間でもあります。このような歴史的魅力に加え、明治以降は温暖で良好な気候と清浄な空気が愛された、西洋式の別荘文化が

栄えた所でもあります。

その「須磨」の地が持つ様々な魅力を神戸市内外に広く発信することを目的として、平成二十八年二月六日～三月二十一日まで神戸市立博物館で「須磨の歴史と文化展―受け継がれる記憶―」展が開催されます。須磨寺からも仏像や絵画や巻物などを多数出品しますが、須磨にとって

も須磨寺にとっても素晴らしく意義の深いこの展覧会に合わせ、二月十八日から二十四日までの一週間ではありますが、本尊御開帳をすることに致しました。

この御勝縁の時を逃さず、温かく穏やかで優しい当山のご本尊様と、是非ゆっくりとご対面ください。お待ちしております。

大本山須磨寺 貫主

合掌

小池 弘三

十三佛に見守られて(3)

―釈迦如来(上)―

摩耶山天上寺貫主 伊藤 浄厳

初七日のお導師(守り本尊)は不動

明王でした。お不動さまは亡き人の前世の悪行(悪い報い)を招くような前世での行いに基づき迷いや苦しみを除き、懺悔をすすめて、堅固な菩提心(悟りを求める心)を起こさせ、釈迦如来のお膝もとまで導いてくださいました。今号では、その二七日のお導師(守り本尊)である釈迦如来(お釈迦さま)についてお話しします。お釈迦さまといっても、歴史上の実在の人物であつたお釈迦さまと、初期大乘仏教の時代に、仏像(彫刻や絵画)として表現された釈迦如来との二つがあります。

一、歴史上実在したお釈迦さま

お釈迦さまは、ご存知の通り仏教の開祖であり、人類史上はじめて大いなる悟りを開かれた人類の大導師であります。

お釈迦さまは、今から二五〇〇年以上の昔、世界の屋根といわれるヒマラヤ山脈の麓、インドとネパールとの国境にある小国カピラバストウを統率していた釈迦族の王浄飯王(シユドダーナ)を父として、その妃・摩耶(マヤー)を母として、ルンビニーの美しい園に誕生。その後、恵まれた環境にあつて、王子としての最高の教育を受けて立派に成長されました。

だが、人間をはじめすべての動物が生きてゆくためには、他の生きものの生命を奪わなければならないという矛盾に満ちた儘ならぬ現実、王子は目を背けられな

かつたのであります。

また、老い、病み、かつ死ぬといった人間の避けられない苦しみの実態(実際のありさま)を見聞きして懊悩されました。そして、ついに自分の進むべき道を予見されて、出家の思いを募らせ、その思いを禁じることができなかつたのであります。

かくして、二十九歳の時に王子の身分を捨てて出家し、六年の間、苦行と瞑想修行に励まれました。だが、得るところなく、三十五歳の時、苦行を捨て、村娘スジャータの乳粥の供養を受けて体力を回復。ネーランジャラー河(尼連禪河)のはとりのアシヴアツタ樹の根元で、不退転の決意をもつて深い瞑想に入られました。そして、ついに中道を悟り、今まで誰一人として達することのできなかつた菩提(大いなる悟りの境地)を得てブツダ(仏陀・悟った人)となられたのであります。その後、ベナレスの鹿野苑に赴き最初の説法をされ、以来四十五年間、実に多くの人々を教え導き、八十歳でクシナガラ之地で入滅されました。

では、お釈迦さまの教えとはどんな内容であつたのでしょうか。お釈迦さまは、自分の体得した悟りの境地に人々を導くために、どのように教えを説くべきかと、真剣に考え抜かれたに相違ないと思います。

そして、このように教え導こうと説き方を定められたのです。これは、その後の

仏教のあり方を決定づけた教えで、縁起・三法印・四諦・八正道であります。次にその要点を略述してみましよう。

(1) 縁起―すべての事象(できごと、現象)

は、無数の原因(因)と条件(縁)とが相互に関係しあつて(依存しあつて)成り立っているものであつて、独立自存しているのものは一つとしてない。当然それらもろもろの因や縁がなくなれば、結果(果)は自ずから滅するといふ教えであります。特に、この縁起の教えは、その後さまさまに展開する仏教各派の教えに通底している仏教の基本的な教説なのであります。

(2) 三法印(仏教の三つの特徴となる旗じるし)

諸行無常―すべてのもの(万物、つくられたもの)は常に移りゆくといふ教え。

諸法無我―すべてのものは因と縁とによつて生じたもので、独立の実体性はないといふ教え。

涅槃寂靜―前の二つの教えを実践すれば、涅槃という静かで心の安らいだ悟りの境地が得られるといふ教え。

(3) 四諦―悟りを得るための四つの聖なる真理

苦諦―この世(人生)はすべて苦しみであるといふ真理(現実の根源的認識)。

集諦―苦しみの原因は飽くなく欲望であるといふ真理。

滅諦―欲望がなくなると、苦しみから解放されて、悟りの境地が開けるという真理。

道諦―悟りを得るための実践についての真理。次の八正道をいいます。

(4) 八正道―悟りに導く正しい修行法

①正見―正しい見解(正しい知見)
②正思―正しい思惟(正しい思考)
③正語―正しい言葉(正しい言葉づかい)
④正業―正しい行為(正しい行い)
⑤正命―正しい生活(正しい生活習慣)
⑥正精進―正しい努力(正しく励むこと)
⑦正念―正しい想念(正しい真実を常に念ずること)
⑧正定―正しい精神統一(正しい瞑想)

これらの教えを説明すれば、分かりきつていて、簡単なことに思えるかもしれませんが、だが、自己自身を省みれば、どの一つをとつても、その教えの深い意味を理解することは容易ではありません。胡椒の丸呑みではいけません。まして、実践修行することは極めて困難で、不可能とさえ思われます。

お釈迦さまの尊い教えは、頭で理解するだけでなく、何よりも実践すること、意義があります。教えを実践して、その教えの目指すところを体得する(悟る)ことが大事なのです。

除夜の鐘と 千巻心経法要のお知らせ

平成二十七年十二月三十一日、午後十一時四十五分より、例年通り、参拝者の皆様を除夜の鐘を撞いていただきます。先着百八名の方々には、記念品の特別絵馬を授与します。百八番目までの整理券は、午後九時半に鐘撞き堂前にて配布します。

百九番目以降の方も、午前二時までは自由に鐘を撞いていただくことができます。

大晦日の夜、当山境内にて、清らかな鐘の音と共に、旧年中の煩惱を払い、清々しい気持ちで新しい年をお迎え下さい。

また、同時刻より、護摩堂に於きまして、千巻心経法要を執り行います。



当山管長導師のもと、旧年の厄を払い、新たな気持ちで新年を迎えられるよう、太鼓の音に合わせ、般若心経を唱えます。

新しい年を迎えるに当たって、旧年にも増して皆で助け合いい、仏様の智慧をいただき、明るい気持ちで過ごしていけるよう共にご祈念したいと思ひます。

修正会のお知らせ

平成二十七年一月一日午後二時より、当山本堂に於きまして、新春開運修正会（大般若転読法要）を執り行います。

導師が、経題を唱えた後に続き、職衆各々が経本を展開する「転読」という特殊な読みかたで、総数六百巻に及ぶ、長大なお経「大般若経」を誦読します。その功力をもって皆様の家内安全、厄除開運から、国家安穩、世界平和に至るまで、一年間の無事を祈念します。

本年十二月末までに祈願札を申込みされた方には、当日本堂にお入りいただき、導師の加持した経本で身体を加持いたします。

新しい一年のご多幸を、皆さまと共に祈念したいと思ひます。

授与品 五千円祈願札（木札） 破魔矢

三千円祈願札（紙札）

申込期限 十二月三十一日十七時まで

須磨寺寺務所にて承ります



ひとすじ弁天 お披露目式

来る平成二十八年一月九日十時より、新たに造立された「ひとすじ弁天」のお披露目式が執り行われます。平成二十七年五月中旬から着工されていた一の谷弁財天周辺整備工事に伴い、今までのご神体を体内に入れた新たな弁財天の仏像を、須磨寺大仏師山高龍雲先生に依頼し造立することとなりました。弁財天は琵琶を持つのが一般的ですが、須磨寺の新たな弁財天は「一絃須磨琴」をひかれています。正に須磨寺にしか存在しない弁財天と言えましょう。

須磨寺管長、小池弘三親下がその弁財天を「ひとすじ弁天」と名づけられました。これは、江戸末期の一絃琴の名手であった真鍋豊平の句「ひとすじに 心こめたる琴なれば 千代の調べも たえじとぞおもふ」からつけられたお名前であり、一筋に何かに打ち込む方へのご利益を祈る想いが込められています。

お披露目式では、僧侶による読経と須磨琴の演奏が行われます。是非このご法縁に浴されましてご参拝下さいますようご案内申し上げます。

記

日時 平成二十八年一月九日（土） 午前十時より

場所 須磨寺 弁天堂

内容 読経と須磨琴の奉納演奏





須磨琴保存会 五十周年 記念演奏会



須磨琴保存会は、発足五十年の記念演奏会を、十月二四日神戸文化ホールで開催いたしました。おかげさまで、天候にも恵まれ、二階席まで満席になり、盛況のうちに無事終えることができました。皆々様の温かいご支援の賜物と心から感謝しております。

ありがとうございます。

当日、これまで五十年間須磨琴の保存伝承に努めてきたことに對し、井戸兵庫県知事から表彰を受け、久元神戸市長から感謝状を頂戴いたしました。舞台上で贈呈式があり、演奏もお聴きいただいて、光栄なことでした。

今年は、阪神淡路大震災二十年の年でしたので、第一部はシンセサイザーと打楽器による祈りの曲で幕をあげ、須磨琴と僧侶の読経によって、鎮魂の祈りを捧げました。

第二部は記念演奏会。新曲「四季の詩」の春は、若手グループ八人が披露しました。そのあと、メンバーが加わったり、変わったりしながら、古曲の「須磨」「おしどり」「須磨の閑守」そして「須磨琴とフルートの為の三千世界」と続き、前半のトリは「青葉の笛」でした。須磨寺に關係深い曲で、源平一の谷の合戦で十六歳で花の命を散らせた平敦盛の御霊よ安かれと歌いました。

休憩の後「春の調」「秋の調」で笛と鼓が入りました。続いての曲「紫野」は、今回の演奏会の為、地唄箏曲の名人で作曲家でもある菊重精峰先生に作っていただいた新曲で初披露でした。飛鳥時代の大海人皇子と額田王の相聞歌です。最後は、須磨寺に四百年ぶりに再建された三重塔を讃える「三重塔讃歌」。再建されて、はや三十年経ち、昨年塗り直され美しい姿で皆々の幸せを願って、聳えています。太鼓と鉢が入り、歌は田中淳子先生、青木耕平先生の応援を得て三九名が声高らかに大合唱しました。司会は、小池管長と阿部京子さんでした。楽しい司会のおかげで、温かい雰囲気の中で会を終えることができました。

終演後、ロビーに出て、御来聴の皆様をお見送りした際に、どなたも、よかったと言ってくださり、ホッといたしました。御来聴くださった皆様、また影でいろいろ助けてくださった方々、一年間練習に励んできた保存会のメンバーに、心からお礼申し上げ、演奏会の報告とさせていただきます。

一絃須磨琴保存会



ネパール大地震支援企画

西方マンドラ展〜ヒマラヤのほとけたち〜



総合計 **585,797円**

頂いた
中売上
会と
覧金
募

去る平成二十七年十月三十一日〜十一月三日まで、須磨寺本坊に於いてネパール大地震支援企画「西方マンドラ展」が開催されました。当展示会は、バンコク在住の西村弘太郎氏の企画であり、秋田県在住の五十嵐牧子氏の所蔵するネパールのマンドラを展示しました。西村氏は高野山開創千二百年記念法要において、根本大塔でのプロジェクトシンマツピングをてがけたCOSMIC LABの一人であり、その御仏縁から須磨寺でマンドラ展を開催する運びとなりました。

須磨寺本坊の座敷に三十点余り展示されたマンドラは、五十嵐氏が幾度にもわたってネパールを訪れ収集されたもので、チベットのラマ僧が迫害を逃れてネパールの山中で描いたものや、仏教とマンドラを学ぶ学僧、アーティスト達が描いたものなど、見る人を飽きさせない繊細さで、来場された多くの方々がその美しさに見入っていました。四日間約千

震災前



人の方が来場され、最終日の十一月三日には、「西方へのねいろ」と題して、チャリティーコンサートが行われました。出演者のSANDHYA（サンディハ）、waino、yuuji Hiramoto、一絃須磨琴などの演奏が披露され、秋の夜の須磨寺で素晴らしい音楽に約二百名の方々が浸っていました。

皆様からお預かりした義援金の使途につきましては、現地の最新情報を精査した結果、タメル地区のドウンゲダラ（共同水汲み場）の修復費用に送らせて頂く事になりました。首都カトマンズのタメル地区は、宿泊施設やお土産物屋が集中した海外からの旅行者が多く集まる場所ですが、海外支援が及んでいない場所です。この地区のドウンゲダラは、先の震災で目の前のホテルが倒壊したことにより埋没しており、現在、現地の自治団体が自力で集めた二十万ルピー（約十七万円）のみで復旧作業を行っているものの、思うように作業が進んでおりません。慢性的な水不足と水道の復旧していない深刻さを考え、寄付先に決めました。

ドウンゲダラ 震災後



須磨寺 夜音 音楽法要祭

平成二十八年四月九日十八時より、第二回となる「須磨寺 夜音 音楽法要祭」を執り行います。「夜音 音楽法要祭」は、平成二十七年七月十一日に第一回が開催され、約千人の参拝の方が参加されました。第一回の法要の主旨としましては、源平合戦（一の谷の合戦）から八百三十年、終戦から七十年にあたる年に、源平戦士たちの慰霊と、戦争で亡くなられた方々の菩提を弔い、今ある平和な暮らしに感謝することと、戦争のない世の中が続いていくことを皆で祈るというものでした。

四月九日に開催予定の第二回も、平敦盛をはじめとする源平戦士への供養と平和への祈りを法要の主旨としています。

法要の内容は、元ブルーハーツ（ロックバンド）のドラマーの梶原徹也氏率いる「神紗」のドラム・和太鼓・舞・三味線の奉納演奏に加え、須磨琴の演奏とKISS FM神戸のサウンドクルー中野耕史氏の語り、そして須磨寺の僧侶達の読経になります。法要の最後には、読経とドラム・和太鼓・舞がすべて重なり合い、祈りの世界を創り出します。

夜のお寺の幻想的な雰囲気の中、須磨寺僧侶の読経と音楽が織りなす祈りの世界を体感して頂き、それぞれの人の心に響く法要にしたいと思っております。そして、お寺に足を運んで下さる多くの方々が、それぞれ平和について考える一つのきっかけとなることであれば幸いです。是非ご知友お誘いあわせてご参拝ください。

記

日時 平成二十八年四月九日

午後六時より

場所 須磨寺 本堂

入場自由



布教研修

新しく須磨寺派に入りました岡山県高梁市西福寺の小林宏清です。私は関東の生まれで十八歳の時に高野山に登り、以後十八年間高野山にいました。ずっと高野山にいましたもので何処へも行ったことがなく、岡山県に来てからもまだ五年程で、四国へもお寺のお遍路が初めてでした。須磨寺に来たのも当然初めてで何もかもが新鮮です。四月の高野山千二百年記念法会にも出仕させて頂きました。高野山では普通なら絶対に仕えることが出来ない金堂での法会に出仕することができて、僧侶として光榮に思っております。

この度は全真言宗青年教師布教研修会ということで、全国の真言宗の青年僧侶が布教、つまり法話について勉強されにきました。北海道や四国や広島の方までおられました。青年教師の方々のお話を聞いて、全国、その地方によって風習や慣習の違いを勉強させて頂きました。また、この度の研修会では私に発表の機会を与えて頂きました。しかし今まで檀家さんの前で五分程度の法話はしたことがあるものの、布教として長い法話などはした事がなく、何を話していいやらと、思案していたところに同じ須磨寺派の方々が手を差し伸べて下さり、夜遅くまで一緒に私の布教の練習に付き合ってく下さいました。おかげで何とか形になり、拙いながらも発表が出来ました。他の青年教師の方の中には、流暢に面白可笑しく

もお大師様の御教えを織り交ぜながら人を引き込むような布教をされている方が何人もおられて、私もまだまだ頑張らなければならぬと痛感させられました。講話では須磨寺派管長小池猊下に色々な法話をして頂き勉強させて頂きました。

今回、全真言宗青年布教研修会に参加し、全国の僧侶の方々と話をする機会を得ることができ、色々勉強させて頂きこのように私でも多少は成長できたのではないかと思います。これを励みにこれからも精進して行きたいと思っています。

西福寺 小林 宏清

◆奉納に対する御礼◆

平成 27 年 7 月 1 日～12 月 14 日

尊蔵地蔵尊 わらべ奉納

藤本	茂信	様	一対
竹場	芳子	様	一体
余川	智聖	様	一体

●須磨寺 親子地蔵尊修復

三重塔西側にお祀りされております、親子地蔵尊の修復を致しまして、去る十二月八日に開眼式を執り行いました。今回の修復は松原瑞芳師が色彩を入れ直し、見事な地蔵尊に蘇りました。また、地蔵尊にお供えする一葉一花を、須磨寺大仏師山高龍雲先生の彫刻教室に通う豊田中様、林美紀様、牧野綾子様、石下合朝子様、松下悦子様、新田美穂様、六名の方が造刻し、ご奉納下さいました。世の中の家庭円満を祈る親子地蔵尊に是非お参り下さい。



※須磨寺の親子地蔵尊は、羽様荷香氏が神戸新聞の連載で読者の涙を誘った「須磨の仇浪（あだなみ）」の物語と深い繋がりがあります。

物語の主人公、土居愛子は明治二十七年播州美濃郡の豪農の二女として生まれ、大正二年淡路の川上家に嫁ぎ、翌年、長女「初音」が生まれましたが家庭不和があり、大正四年十二月十九日淡路から神戸に向かう汽船「豊浦丸」から娘共々身を投じました。ご遺体は須磨に漂着し、須磨寺にて葬儀が営まれました。

その後、大阪の笹木徳松氏が故人の霊を慰める為、そしてこれからの世に家庭不和に泣くものがないようにと祈りを込め、神戸の小坂ふさ氏の援助を得て、須磨寺に親子地蔵尊を造立されました。昭和十四年には故人の二十五回忌に女優入江たか子氏が須磨寺で法要を行い、映画「須磨の仇浪」が再演されました。

「須磨寺 大峰山入峰修行」

去る九月四日、毎年恒例の須磨寺青年会主催「大峰山入峰修行」が行われました。十二名が参加し、内二名が初めての入峰でした。今回初めて参加しました須磨寺職員の草壁祐瑞師の体験談を掲載します。

◎大峰山入峰修行を終えて

初日は天川村の洞川温泉郷に到着後、時間の都合によりそのまま龍泉寺にて滝行、水行を行いました。

翌早朝五時より出発準備を、六時には山の入り口である女人結界門に到着し大峰山上、高野山山に向かい法螺を立て道中安全のご法楽をあげました。女人結界門をくぐり出発した私たちですが生憎の曇り空で道中霧にあい、小雨にも見舞われました。私と須磨寺派にこのたび転派された小林僧正が新客と呼ばれる新人といふことで先達の高木僧正に続き先頭を歩かせていただきました。

途中、細い橋が続くところ、岩肌を上るところ、険しいところを通るには「慚愧、懺悔、六根清浄」の言葉と共に全員で声を合わせ乗り越えました。辛い時こそ声を出して力を出すのです。役行者ゆかりの史跡やお像をお祀りするところでは高木僧正に先達してもらいながら進みました。そして山上に近づくとつれて険しくなる道に皆声を掛け合い、金剛杖をたよりに山上を目指しました。山上に着くまでは残念ながら天気が悪く今回の目的である行場での修業は無理だろうと思われました。しかし山上へ着



き大峰山寺本堂をお参りし秘仏役行者像の前でご法楽をあげお堂を出た時には晴れ間がのぞいていま

した。

おかげによって晴れたからにはということでも、お昼を山小屋で取らせてもらった後、我々新客は先達に連れられ表行場と言われる鐘掛け岩での行に挑みました。先達に従い鎖を頼りに垂直に近い岩肌をよじ登り決して下を見ないよう一心に上を目指しました。命綱もなく集中して登ればその先でようやく安心感と達成感が湧いてきました。

そして日本三大荒行場として有名な西の観という行場へも挑戦しました。この行は切り立った崖から身を乗り出しながら日頃の懺悔をするという荒行です。先達と小池副住職に足を支えられ両肩には綱をかけいよいよ崖へ、徐々に先へ進むと百メートルほどの崖下が見える状態になりそこで先達に「親を大事にしているか!」「仕事はまじめにしているか!」等問いかけられ余りの恐怖に返事が遅れるとすると下へ下げられ、まさに死ぬのではないかとという恐怖の中での修行でした。終わって引き上げられた時にはまるで生まれ変わったかのような爽快感とこれで帰れるという安心感から小林僧正と笑いつたのを覚えています。その後無事下山し、初めての入峰修行は終わりました。この度の修行でたくさんの人に助けられ生き得たことを実感しました。また懺悔し、修行で得ることができたことを、日々お世話になっている皆様にお返ししていきたいと思っています。



合掌 草壁 祐瑞

須磨寺の歴史(十六)

須磨寺に伝わる古記録の『当山歴代』は中世以来、書き継がれたもので平安末の嘉応二年(一一七〇)から江戸時代の宝暦二年(一七五二)までの五八〇年余りの須磨寺の造営と興行を中心に書かれ、中近世を一貫した寺院史及び周辺地域史の編年資料として高く評価されています。その中でも天正五年(一五七七)以降からは文章、体裁も整い、いつそう詳細で内容豊富になります。今回から『当山歴代』を基に須磨寺の近世がどのようなものだったのかということを見ていきたいと思います。

まず江戸時代初期に本堂が修復され、管弦が復活されました。また、開山上人・敦盛の御遠忌や本尊観音に因む三十二年ごの御開帳、たびたびの災害及びその復興などの様子が詳細に記録されていますが、それらの詳細を見る前に今回は須磨寺を構成していた寺院について見ていきたいと思います。

現在須磨寺は本坊、正覚院、桜壽院、蓮生院の四ヶ寺で構成されていますが、近世はどうだったのかと、『当山歴代』を見てみると、はつきりと塔頭寺院のことを書いた記事はありません。復興や寄進の願主・福祥寺の総代・対外的な折衝時の記録を見てみると、桜壽院、慈眼院、東林院、華嚴院、大聖院、正覚院、蓮生院、不動院など八ヶ寺の名前が見えるので、時代によって違うかもしれませんが近世はこの八ヶ寺で須磨寺は構成、運営されていたと考えられます。

次回から近世の須磨寺が置かれていた社会的状況やその背景、開山上人、敦盛の御遠忌や三十二年ごの本尊御開帳、災害及びその復興の様子を詳細に見て須磨寺がどのような寺院だったのかを見ていきたいと思います。

須磨寺 石仏苑



来る平成二十八年四月二十五日、須磨寺門前の石仏苑の落慶法要を執り行います。

平成二十七年五月中旬から着工しました須磨寺石仏苑が平成二十八年四月に完成予定となっています。石仏苑は、株式会社サンクロレラの前会長が収集された数千体に及ぶアジアの石仏群を、現社長が当山に奉納されました。参道の景観向上と参詣者の安らぎの場となるようにとの想いから須磨寺の門前で参道沿いの空き地に石仏苑を造立することとなり、着々と工事が進められております。東南アジア系の石像が回廊を囲むような形で並び、他にはない空間を作り出します。是非須磨寺の新たな名所として、憩いの場として皆様に親しんで頂きたいと存じます。

石仏苑の本尊として、ネパールの仏塔を造立することから、ネパールで起きた大地震の日四月二十五日に合わせて、ネパールの復興を祈り石仏苑の落慶法要を厳修します。是非お参り下さい。

平成28年 年間行事 予定表

- 1月1日(元旦・金) 開運修正会(大般若転読)
 - 1月 3ヶ日 正月特別護摩祈禱
 - 1月17日(日) 大震災物故者慰霊法要
 - 28日(木)~2月3日(水) 寒行(星祭護摩祈禱)
 - 2月3日(水) 節分星祭護摩祈禱(本坊護摩堂)
節分星祭祈禱(蓮生院・桜寿院)
 - 2月12日(金) 須磨寺先師忌土砂加持法要
 - 3月5日(土) 平敦盛・源平戦士追悼法要
(須磨浦公園 敦盛塚)
 - 3月11日(金) 東日本大震災 自然災害物故者慰霊法要
 - 3月15日(火) 平敦盛・源平戦士追悼法要
(須磨寺本堂)
 - 3月18日(金)~24日(木) 彼岸会(特別護摩祈禱)
 - 4月2日(土) 十三まいり
 - 4月6日(水)~8日(金) 花まつり
 - 4月9日(土) 須磨 夜音
 - 4月17日(日) 青葉殿 納骨供養祭
 - 4月25日(月) 石仏苑 落慶法要
 - 6月15日(水) 弘法大師降誕会
 - 7月30日(土) 子供寺子屋修行
 - 8月 9日(火) 四万六千日法要(みあかり観音)
 - 8月12日(金)~15日(月) 盂蘭盆会
 - 8月15日(月) 盆大施餓鬼法要(本坊)
 - 8月17日(水) 青葉殿盂蘭盆会法要
 - 8月19日(金) 盆大施餓鬼法要(桜寿院)
 - 8月20日(土) 盆大施餓鬼法要(蓮生院)
 - 9月20日(火)~26日(月) 彼岸会(特別護摩祈禱)
 - 11月23日(祝・水) 須磨の火祭り 柴燈護摩
 - 12月31日(土) 千巻心経法要
除夜の鐘 鐘楼堂
(21時30分 除夜の鐘 整理券配布)
- 毎月18日 10時 写経会
- 毎月20・21日 お大師参り
- 毎月3・8・13・18・20・21・23・28日 護摩祈禱

平成二十八年 年忌数え年早見表

さる	ひつじ	うま	み	たつ	う	とら	うし	ね	い	いぬ	とり
申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥	戌	酉
平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年
1 ● 羅喉星	2 ○ 土曜星	3 ○ 水曜星	4 ○ 金曜星	5 ○ 日曜星	6 ● 火曜星	7 ● 計都星	8 ○ 月曜星	9 ○ 木曜星	10 ● 羅喉星	11 ○ 土曜星	12 ○ 水曜星
平成16年	平成15年	平成14年	平成13年	平成12年	平成11年	平成10年	平成9年	平成8年	平成7年	平成6年	平成5年
13 ○ 金曜星	14 ○ 日曜星	15 ● 火曜星	16 ● 計都星	17 ○ 月曜星	18 ○ 木曜星	19 ● 羅喉星	20 ○ 土曜星	21 ○ 水曜星	22 ○ 金曜星	23 ○ 日曜星	24 ● 火曜星
平成4年	平成3年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和59年	昭和58年	昭和57年	昭和56年
25 ● 計都星	26 ○ 月曜星	27 ○ 木曜星	28 ○ 羅喉星	29 ○ 土曜星	30 ○ 水曜星	31 ○ 金曜星	32 ○ 日曜星	33 ○ 火曜星	34 ● 計都星	35 ○ 月曜星	36 ○ 木曜星
昭和55年	昭和54年	昭和53年	昭和52年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和45年	昭和44年
37 ○ 羅喉星	38 ○ 土曜星	39 ○ 水曜星	40 ○ 金曜星	41 ○ 日曜星	42 ○ 火曜星	43 ○ 計都星	44 ○ 月曜星	45 ○ 木曜星	46 ○ 羅喉星	47 ○ 土曜星	48 ○ 水曜星
昭和43年	昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和36年	昭和35年	昭和34年	昭和33年	昭和32年
49 ○ 金曜星	50 ○ 日曜星	51 ○ 火曜星	52 ○ 計都星	53 ○ 月曜星	54 ○ 木曜星	55 ○ 羅喉星	56 ○ 土曜星	57 ○ 水曜星	58 ○ 金曜星	59 ○ 日曜星	60 ○ 火曜星
昭和31年	昭和30年	昭和29年	昭和28年	昭和27年	昭和26年	昭和25年	昭和24年	昭和23年	昭和22年	昭和21年	昭和20年
61 ○ 計都星	62 ○ 月曜星	63 ○ 木曜星	64 ○ 羅喉星	65 ○ 土曜星	66 ○ 水曜星	67 ○ 金曜星	68 ○ 日曜星	69 ○ 火曜星	70 ○ 計都星	71 ○ 月曜星	72 ○ 木曜星
昭和19年	昭和18年	昭和17年	昭和16年	昭和15年	昭和14年	昭和13年	昭和12年	昭和11年	昭和10年	昭和9年	昭和8年
73 ○ 羅喉星	74 ○ 土曜星	75 ○ 水曜星	76 ○ 金曜星	77 ○ 日曜星	78 ○ 火曜星	79 ○ 計都星	80 ○ 月曜星	81 ○ 木曜星	82 ○ 羅喉星	83 ○ 土曜星	84 ○ 水曜星
昭和7年	昭和6年	昭和5年	昭和4年	昭和3年	昭和2年	昭和元年	大正14年	大正13年	大正12年	大正11年	大正10年
85 ○ 金曜星	86 ○ 日曜星	87 ○ 火曜星	88 ○ 計都星	89 ○ 月曜星	90 ○ 木曜星	91 ○ 羅喉星	92 ○ 土曜星	93 ○ 水曜星	94 ○ 金曜星	95 ○ 日曜星	96 ○ 火曜星
大正8年	大正7年	大正6年	大正5年	※大厄……男：41歳・42歳・43歳 女性：32歳・33歳・34歳							
97 ○ 計都星	98 ○ 月曜星	99 ○ 木曜星	100 ○ 羅喉星								

平成28年の当たり星の吉凶表

○	○	●	●	○	●	●	●	●	●
木曜星	大月曜星	大計都星	大火曜星	大日曜星	半金曜星	末水曜星	半土曜星	大羅喉星	九曜星
この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。	この星にあたる人は、前年に引続き、良い年となります。大いに努力して下さい。ただし、来たる年に、大きな災いや苦勞を招くこととなります。十分に注意して下さい。

平成二十八年 年忌一覧

一周忌	平成二十七年	二十五回忌	平成四年
三回忌	平成二十六年	二十七回忌	平成二年
七回忌	平成二十二年	三十三回忌	昭和五十九年
十三回忌	平成十六年	三十七回忌	昭和五十五年
十七回忌	平成十二年	五十回忌	昭和四十二年
二十三回忌	平成六年	百回忌	大正六年